

令和3年5月28日

官房長官 加藤 勝信 殿

公明党政務調査会長 竹内 譲

外交部会長 佐藤茂樹

COVAX ワクチン・サミットに向けての緊急提言

2020年9月、日本政府は他国に先立ち、ワクチン供給のための国際的枠組みである「COVAX ファシリティ」への参加を表明。この早期の参加表明で、主要国が続々と参加し現在191ヵ国が参加するなど、国際保健分野でのリーダーシップを発揮してきた。さらに、本年6月に開催されるCOVAX ワクチン・サミット（AMC増資首脳会合）を、共催国として開催することを発表。世界規模での新型コロナウイルス感染症収束に向けて、日本政府が米国など諸国と引き続き協力し、Gaviへの支援を強化していくことが期待されている。

また、CEPIは、COVAXのワクチンの研究開発部門の役割を担っており、今回の新型コロナウイルスワクチンとして実用化されているモデルナ、アストラゼネカを含む12のワクチン開発を支援し、さらに、世界規模の流行を生じる恐れのある感染症に対するワクチンの研究開発を促進し、流行が生じる可能性が高い低中所得国においてもアクセスが可能となる価格でのワクチン供給を目的に活動している。

COVAX ファシリティにいち早く参加し、6月にはCOVAX ワクチン・サミットの共催国を務める日本政府からは、コロナ以降の次なるパンデミック等の危機対策支援として、CEPIへの引き続きの大きな支援が期待されている。

新型コロナウイルス感染症収束と、世界の保健医療システムの強靱化を図り、世界的な感染症の脅威に対する国際的な取り組みを加速させるため、以下の項目について強く要請する。

記

1. 安全性、有効性、品質を担保されたワクチンの全世界への公平な供給を迅速に実施するため、6月に開催される「COVAXワクチン・サミット(AMC増資首脳会合)」に向け、新型コロナウイルス収束のための大きな役割を担うCOVAX ファシリティの途上国向け枠組み(AMC)への必要な追加拠出金(7億ドル以上)を確保すること。
1. 新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束に向け、全世界へワクチンを届けるための信頼性の高いコールドチェーン整備への支援とともに、コロナ以降の次なるパンデミックの脅威への国際連携強化に向けて、CEPIへの継続的支援を実施すること。
1. ODAを積極的に拡充し、世界の保健医療システムの強靱化に寄与すること。また、この分野に取り組む日本企業を政府が後押しすることにより、日本のイノベーションが世界の保健医療システムの改善に貢献するよう取り組むこと。